道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

三好礼子
エッセイスト・国際ラリースト
～http://www.fairytale.jp/～

昨年末のケープタウンのトレラン大会が思い出深いのは、トランジットで寄ったエチオピアが面白すぎたからかもしれません。実は出だしから冷や汗でした。よくあることですが、私のスーツケースだけがケープタウン空港に届かなかったのです。レースには間に合ったものの、危うくトレラン用品一式揃えねばならないところでした。いつも私は、少しでも安く行ける手立てを画策します。エアチケットは特に念入りですが、昨年利用してファンになったトルコ航空は、私が利用した直後にイスタンブールで爆発テロ事件。お気に入りと危険は隣り合わせ？　エチオピア航空は初めてでしたが、機内食もおもてなしもよかったし、砂漠の上を飛ぶのでワクワク。「もっとここでのんびりしたいな～」と願ったから事件が起きたのかも。

レースを終え、ケープタウン空港でチェックインした時のことです。「あ、貴女はそちらへ」とカウンター奥に回され、待たされること2時間。気がつけば十数人が同じ運命で途方に暮れています。我々がアディスアベバに着いた時には、乗る予定の飛行機はすでにテイクオフというコンピューターミスでした。同盟仲間で怒ったけれど、なんとかチケットを手にして機上の人に。もしかしたら帰れるのかと甘い期待を抱きつつ空港で走ったけれど、飛行機の姿はなし。現場の担当者が呆れた顔で言います「奥様、チケットに書いてあるでしょう。日本への出発は丸1日後。飛行機会社が用意したホテルでお過ごし下さい」。確かに滞在を願った。でも私は疲れて早く日本に帰りたかった。しかもスーツケースは預けてあるので、着た切り雀。

諦めてホテルへ移動となりました。しかし、目が覚めます。通関を出たら、真夜中の空港は人影もなく、ライフル銃を持った警備の軍人があちこちに立つ厳戒態勢でした。案内の女性空港職員は、ちょっと外に出たら追い出され、2度と戻れず。ありか？　移動のバスから見える街並みも不気味に見えてきた。大丈夫か？　しかし、一夜明けたら別世界。ホテルは立派で、朝食のバイキングは郷土食もあり大満足。見下ろすと、人と車の往来ですごい熱気。ほっとしてパソコンを開けると、天気予報は見ツイッターは個人情報規制で開けず（初体験）。外に行きたいけれど一人じゃ心細い。と思っていたら、同じくホテル滞在となったムンバイ衆に「車とガイドを頼んで市内観光しないか」と誘われ、即答でOK！

ハイエースにインドの8人と私が乗り込んで、即席の旅が始まりました。車窓からの喧騒はとにかく面白い。歩いている人がやたらと多く、お店も市場も賑わっている。動物と共に太陽の下で開けっぴろげに生きている様は、ネパールを彷彿させます。80もの多民族国家で構成され、キリスト教とイスラム教が97％を占めるエチオピア。山が多いので水源に恵まれ、農業も盛んです。コーヒー豆は有名ですが、やはり陸上選手が一番に浮かびます。来て納得。アディスアベバで標高2400m。我々が連れていってもらった寺院のある山は3000m近く、そこをカマドで使う薪をてんこ盛りに背負って運ぶ女性たちの姿は脱帽もの。よい稼ぎになるそうですが、ロバも人間も満身創痍のアスリートでした。

中心街は、道は広くビルも連立。そしてどこもかしこもトヨタだらけ。海のない国ゆえに決して安くはないけれど、信頼性からだそう。街中でも小さな土産物屋やカフェはいっぱいあり、地元に混じって堪能しました。笑顔で沢山語らったけれど、厳戒態勢の空港との対比が不思議。近隣諸国との緊張感はあるのでしょうが、街中の活気や庶民の暮らしは、素朴で意欲的で癒やされます。厳しい山が多い地形く、なかなか道路は進まないそうですが、あの新運びと同じく、マンパワーであちこちで工事がなされてました。道はいいとはいえないけれど、人が大勢溢れており、未来が感じられます。ホテル前の学校に通う男女が放課後歩いて帰る様は、いつまでも眺めていたい平和な光景でした。インパクトいっぱいのエチオピア、いい！　航空会社のミスに感謝。また行きたいけれど、すんなり入国したら物足りなかったりして？

見知らぬ同士のムンバイ在住のインド人たちと私。すっかり仲良くなった。

ロバより多いお運びウーマン。すごい速さで山を下る。爪の垢が欲しい！

トヨタ以外を見つけるのは至難の技。愛されているのはすっごく嬉しい♪

町カフェで美味しいエチオピア式コーヒーを堪能。日本式に注いでウケた。

人、車、店、パラボラ、工事中の道、学生たちの笑い声。街路が面白い。

九州の散歩道

日本初のハネムーン「龍馬の散歩道」

フリージャーナリスト　湯浅玲子

寒い季節はゆったり温泉に浸かりたくなるもの。九州は温泉の宝庫であり、とりわけ冬場は多くの観光客でにぎわいます。今回ご紹介するのは坂本龍馬が妻のお龍とともに旅した鹿児島・霧島エリアの温泉地。雄大な自然に囲まれた霧島は温泉と神話の宝庫です。

1866年、坂本龍馬は寺田屋事件で受けた傷を癒すため、妻のお龍とともに薩摩地方を訪れます。温泉で湯治をしながら霧島を観光して回りますが、これが日本で最初の新婚旅行だといわれています。男女が寄り添って歩くこともめずらしかった当時、龍馬とお龍は毎夜川べりでデートしたといい、かなり進歩的な考えの2人だったのでしょう。

龍馬夫妻が最も長く滞在したのが塩浸（しおひたし）温泉。天降川（あもりがわ）沿いにあり、古くから切り傷や胃腸病に効能があるとされてきました。現在は塩浸温泉龍馬公園となっており、温泉はもちろん龍馬資料館や2人の銅像が立つ記念碑もあります。川沿いには夫妻が入浴したという湯船も残されています。

ここから龍馬夫妻がたどった道は「龍馬の散歩道」として整備されています。散歩道といっても山中を歩き、石段を上る自然道。片道約4キロ、周遊すると約10キロのコースは結構な運動になります。コースには紅葉の美しい新川渓谷、緑に囲まれた和氣神社、高さ36メートルの犬飼滝などがあり、自然の息吹を感じることができます。2人はここで魚を釣ったり、鳥を撃ったりして遊んだそうです。

また天孫降臨の伝説が残る霧島連山の高千穂峰にも一緒に登りました。高千穂峰の山頂には神々が逆さに落とした鉾「天の逆鉾」が突き刺さっており、龍馬とお龍も目にしています。山の麓にある霧島神宮にも参拝したと記録にあります。

「龍馬の散歩道」ではガイド付きのトレッキングツアーが定期的に開催されています。龍馬夫妻ゆかりの話を聞きながら自然の中を歩くツアーはなかなか楽しいもの。また毎年3月には「龍馬ハネムーンウォークin霧島」が行われます。2人のハネムーンを記念して、日本で最初に国定公園に指定された霧島で開催されるウォーキング大会。霧島の自然や歴史を楽しむいくつかのコースがあり、自分の興味や体力によって選ぶことができます。

車が普及し、道路が発達した現代は、ここで紹介したほとんどの施設に車で行くことができます。でも、ときには車を降りて、大自然の中を歩くのも楽しいものです。

（写真提供：霧島市）

坂本龍馬とお龍が新婚旅行で訪れた塩浸温泉

多くの神話が残る緑深い山中にある霧島神宮

ハッと思いました

「鬼は外！福は内！」。季節の変わり目「節分」の行事はお済みですか？

そもそも「鬼」とは何なのでしょうか？赤鬼、青鬼など昔話には出てきますが本来は季節の変わり目にあらわれる邪気の事らしいです。では「邪気」とは？

人の精神や身体に悪影響を与えるものと考えられています。要するに、自らが自身の考えや行動などを見つめ直して、反省すべき事があれば真摯に反省して、人の道から外れない様、鬼にならない様戒める行事じゃないかなあと思うのです。

考え方は人それぞれなので、あくまでも私の考え方なのであしからず。

先日、ある言葉が耳に残りました。それは「民度」です。民度とは、あるグループにおけるいろんな事の成熟度を示すものです。マナーを守らなかったり、何事も自分勝手であったり、自分で努力する事を怠り人のせいにばかりしたり、おはよう・こんにちは・ありがとう・ごめんなさいなど挨拶ができない人やグループを「民度が低い」と言う事になります。今流行りの「○○ファースト」と言うのも、見方によれば、○○の身勝手と考えれば、それはエゴイズムで民度が低いとも言えませんか？

信号無視、速度違反、違法駐車、飲酒運転、安全運転義務違反などなど、どれも民度の低～いドライバーの所業です。

ひとり相撲ならまだしも、全く無関係の人たちが巻き添えを食う様な事態もあるわけですからたまったものではありません。

人は見聞の視野が狭くなった段階で、民度の低い立場になってしまう様です。いつでも、どこでも、どんな場面でも、自らの民度を落とさぬ様、自重自戒を心がけたいものです。

高齢者ドライバーのアクセルとブレーキの踏み間違い事故や高速道路や一般道での逆そう事故について、たたみかける様ですが、「高齢者には運転させるな」と高齢者（何をもって対象の高齢者とするのか？）を一括りにしています。この風潮には疑問があります。暴走行為をする「若者たち」、飲酒運転をする「飲酒者」と言う括りにもなります。薬物常用者もあるでしょう。そこまで踏み込んで免許の交付を考えるのであれば、口は出しませんが、認知症や視力聴力運動能力など運転に適さない場合と高齢者とは同一では無いのですから、安易に高齢者ドライバーばかりを標的にする事は如何なものでしょうか。

ともかく、豆まきは一月の浮かれ気分から、シャキッと目を覚まし、襟を正しなさいと言う先祖のお言葉だと受け止める事にしたい思います。節分の豆まき＝邪気払い＝民度向上＝豊かな人生・・・と言うのは少し大袈裟でしたか。